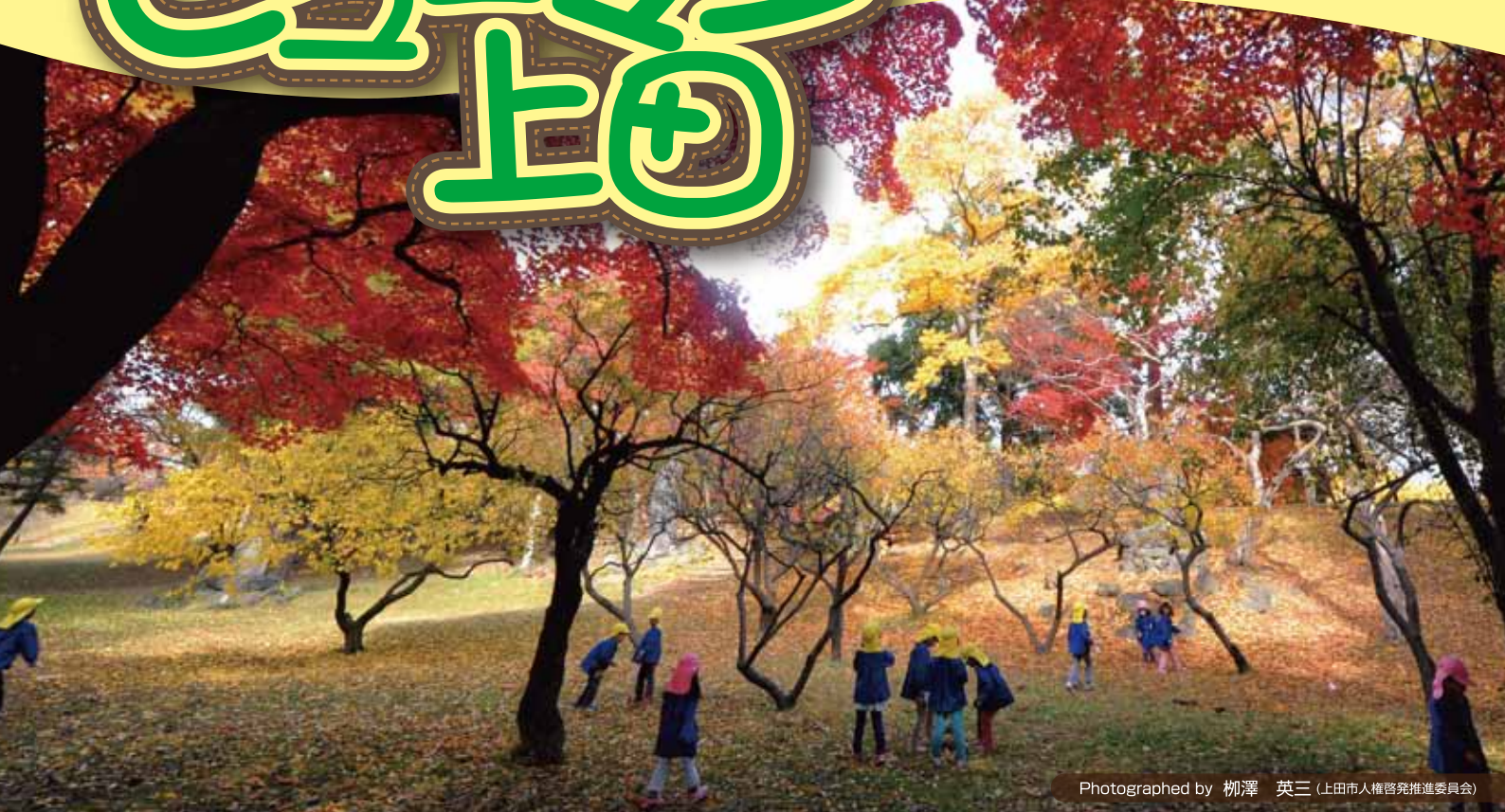


ヒューマン 上田

ヒューマン【Human】とは…

「人間の」とか「人間的」と訳され、一人ひとりの人権を大切に
する明るい上田市であることを願い、名付けられました。



Photographed by 柳澤 英三 (上田市人権啓発推進委員会)

引き継ぐ ~つながる~

上田市人権啓発推進委員会 会長 出澤 宏

紅葉の中を子どもたちは明るい方へ高い方へ向かい、それぞれに喜びいっぱい自己を表現している。人権が守られている平和な秋のひとつです。

今年はいくつかの節目の年です。日本が降伏して、第二次世界大戦が終結してから70年。同和対策審議会答申が出されて50年。人権教育・啓発推進法が施行され15年になります。

さて、昨年10月に報道された、次のことばに衝撃を受けた。「なぜ強いといわれる国々は、戦争を生み出す力がとてもあるのに、平和をもたらすことにかけては弱いのでしょうか。なぜ銃を与えることはとても簡単なのに、本を与えることはとても難しいのでしょうか。なぜ戦車をつくることはとても簡単で、学校を建てることはとても難しいのでしょうか。」これは、17歳の少女マララ・ユスフザイさんがノーベル平和賞を受賞したときの講演の一節です。

また、1992年ブラジル・リオデジャネイロでの地球環境サミットで、当時12歳の少女セヴァン・カリス＝スズキさんが各国のリーダーを前に「オゾン層にあいた穴のふさぎ方」などを問い、そして「直し方を知らないのであれば、壊し続けるのをやめるように」訴え、さらに「行動で示してほしい」と。

少女たちの言葉に清々しい気持ちになった。しばらくして世間のわだかまりを知らない若者故の発言だと思った。また少し時間を置いて読み返してみると、そのとおりじゃないか、少女の素直な気持ちの表現だと思うようになった。日本では電力の安定供給を理由に、原発再稼働に向けた動きもあるが、危険な放射性廃棄物を長期間にわたり安全に処理する方法を本当に知っているのだろうか、まだ解決できないのではないだろうか。

また、国連は政府にヘイトスピーチ(憎悪表現)問題には「毅然と対処し、法律で規制する」よう勧告している。しかし外務省は、「表現の自由などを不当に制約することにならないかを検討する」ととどめている。ヘイトスピーチを行う人々は、汚い言葉で非難するが、相手が傷つくことへの想像力がないようだ。

今、地球上では考えや意見の違いを話し合わないで、性急に争い、武器使用によって命を落としている人たちがいる。同じ時代に地球上に生かされているのに、お互いに生きようとしなくて他者を排除しようとしている。

蛇口の先にダムが、スイッチの先に発電所があることが想像できるように、他者と比べて相手をおとしめるのではなく自分を高めることを想像する。

そしてギターは弾かなきゃ音がでないように、世の中を少しでも良くするために自ら行動していきましょう。

特集 共に生きる ～障がい者と人権～

障がいのある方の思いを聞いて

9月12日、東築地自治会で障がい者と人権を考える「人権講座」が開催されました。

講座では、ラジオパーソナリティやピア・カウンセラー（仲間カウンセラー）などで活躍されている^{ひろさわ りえこ}広沢里枝子さんの講演と、そのあと広沢さんと^{いしの ひろこ}石野裕子さんの対談がありました。

視覚障がいの広沢さんは、盲導犬「ジャスミン」とともに生活されている様子や周りの人たちへの願いを話されました。

対談では、石野さんが先天性脳性麻痺のため車イスで生活されている不自由な思いや差別を受けたつらい経験を話され、「障がいがあっても、みんなと同じ生活をおくるために勇気をふりしぼって行動をします。それは、自分のためであり、他の障がい者のためでもあります。」と力強く語られていました。

参加された方からは「これから、わたしたちにできることがあったら言ってください。なにかお手伝いさせていただきたいと思います。」との声がありました。



石野さん(左)と広沢さん(右)と盲導犬 ジャスミン

相手の立場になって気づく

上田市内の各自治会では、さまざまなテーマを取り上げて、人権同和教育懇談会を行っています。東築地自治会のように障がいがあっても自立した生活を送られている方の思いや経験を聞く研修会、また他の自治会では、障がい者の立場になって体験する講習会も行われています。

実施例 千曲町自治会の人権同和教育懇談会

千曲町自治会の方と障害者支援施設上田しいのみ園の職員が参加して、^{かくたのぶはる}上田しいのみ園施設長の角田信治さんの講演を聞いたあと、アイマスク



体験と車椅子に乗ったり押したりする体験をしました。

アイマスクを着けて施設を巡回した参加者は、「施設の様子を分かっても歩くことは本当に大変だった。これから目の不自由な方が困っていきそうなときは、声をかけたい。」と話していました。

講演と体験を終えて、角田施設長が「これを機会に障がいのある方の気持ちを知り、日常でも相手の気持ちを考え、思いやる気持ちをもって欲しい。」と話をされました。



自分にできることから行動してみよう

相手の立場や気持ちになって考えることができる人権感覚を養い、自分にできることから、まず動きだしてみよう。

これらマークや設備ご存じですか？

【障がい者のための国際シンボルマーク】



障がい者が利用できる場所であることを表す世界共通のシンボルマークです。「すべての障がい者を対象としたもので、特に車椅子を利用する障がい者を限定したものではありません。」



上田駅前の駐車場

【身体障がい者標識】



【聴覚障がい者標識】

肢体不自由・聴覚障がいであることを理由に免許に条件を付されている方が運転する車に表示する

マークです。

※内閣府ホームページ「障がい者に関するマークについて」、(福)日本盲人会連合ホームページ「点字ブロックについて」より

【点字ブロック (正式名称 / 視覚障がい者誘導用ブロック)】

点字ブロックは、視覚障がい者が足裏の触覚で認識できるよう、突起をつけたもので、安全に誘導するために敷設されているブロックのことです。

点字ブロックには、誘導ブロックと警告ブロックの2種類あり、視覚障がい者が安全に歩行・移動するために必要な設備です。



上田駅前の歩道

他にも、街で見かける障がい者に関するマークや設備があります。これらを見かけた時は、障がい者の利用への配慮をし、点字ブロックの上には物を置かないよう心がけましょう。

動き出すということ

長野県 A 高校が 1996 年(平成 8 年)に先天性視覚障がい者で全盲の生徒(B 君)の入学を許可したことを記憶している人も多いかと思います。生まれつき目の不自由な生徒を受け入れるにあたって、学校は B 君が安心して高校生活を送られるよう、校内の危険場所を点検、改修し、また学習に困らないように点字のプリントや試験問題をいつでも用意できる万全の体制を整えました。

そうした周囲の援助と B 君自身の並々ならぬ努力の結果、三年後、彼は無事卒業の日を迎えることができました。そして大学への進学の実も果たしたのです。

ところで、B 君を三年間支えていたものは安全な環境と点字を初めとする学習の支援だけだったのでしょうか…。実は彼を強く支えていた別のことを、後日知人の話から知ることができました。私が最も心を熱くさせられたのは次の二つの話でした。

ある日、「先生、星や月はどのようなものなんですか。」と B 君が尋ねてきたという。しかし、全盲の彼にどれだけ言葉を費やしても星と月の実体を理解してもらうには限界があった。そんなある日、クラスメートの一人が満月の夜をねらって、学校がある町の高台に彼を連れて行き、二人で空を眺めたという。(彼に)月は見えたのか?…彼の言葉を借りれば、漆黒の空間の中に「なにかぼんやりとしたものがあった。」という。

「先生、色とはどういうものですか。」この質問には美術科の教師が動いた。様々な手段を考えた末、最終的に「色を彼の目に当てる簡単な光学的装置」で対応した。緑、赤、青、黄…。「何か感じるものがあります。」と彼。その時の美術教師の言葉が実にいい。「そうなんだよ、君が今感じたままのものが色なんだよ。」

B 君を本当に支えていたものは、何だったのでしょうか。それは人のためにまず動き出すという人々の「行い」ではないのでしょうか。この人々の行動こそが、もう一人の人間の生涯を幸せで包み込んでくれるのです。

B 君は今年、大学 4 年生になった。

【塩田公民館 鈴木 久男 / 2002年 中学生に向けて書いた文章より】

いのち・愛、そして絆を大切に作るまちづくり

上田市人権啓発推進委員会 平成26年度の歩み

上田市人権啓発推進委員会は、昭和63年2月「部落差別をなくす上田市人権啓発推進委員会」として発足し26年が経過しました。平成9年には、あらゆる差別をなくし人権意識を高める啓発を行うことを主眼に置いた組織とし、現在の名称に改めました。

市民140余名の会員により、人権啓発活動を行っています。より多くの皆様にこの委員会を知っていただきたく、この1年間の主な活動を紹介します。

委員視察研修会

それぞれの学びの場を視察して

7月17日(木)、視察研修として長野県松本盲学校と松本少年刑務所を訪問しました。

松本盲学校には今年度は35人の児童生徒が幼稚部・小学部・中学部・高等部で学んでいます。卒業後は、一般の福祉就労の他、専門的な資格を取得するための



松本盲学校

学校へ進学しているそうです。学校では、「盲学校や視覚障がい者の状況を多くの人に知ってもらいたい。理解してもらいたい。」と学校公開や

交流行事に積極的に取り組んでいるとの説明を聞き、「人権を守る」上でまず知ることの大切さを学びました。

松本少年刑務所は、遠くに北アルプスの雄姿を見る松本市桐の地にあります。主に20歳未満で少年院への収容を必要としない犯罪傾向の進んだ少年受刑者を収容しています。そして、施設内には全国で唯一中学校(旭町中学校桐分校)があります。全ての収容者に対して再発防止と円滑な社会復帰ができるよう公平で適切な環境の確保に努めているそうです。見学を終えて庁舎玄関上のレリーフ「愛の母子像」に込められた願いをあらためて実感した研修でした。



松本少年刑務所

講演は、ジャグリングの披露から始まりました。講師ピーター・フランクルさんは、まず「ユダヤ人として生まれたことで差別されました。親から伝えられた悪の連鎖を無くすのは、難しいことです。」と語りました。さらに「日本でも部落差別があり、私の友人はそういう人々を家に上げなかったと聞いている。」と話したあと、「日本人の特性」に話題が移りました。日本人は、外国人への好奇心が強いこと、宗教に関して世界一寛大であることを挙げました。その中で「人生で大切なのは、生きる幸せ。やっていること一つひとつを楽しむことです。」とまとめました。また、日本で学んだ大きなことは「日本人はけんかを避けるようにしていることだ。」と話しました。

最後に「自分を大切にすることは、自分の周りの人々を大切にすることです。どうぞ、相互の関係を大切にしてください。」と結びました。



ジャグリングを披露するピーターさん

第9回人権を考える市民のつどい

日本人のよさ 「けんかを避けようとするところ」 —ピーター・フランクルさん講演—

10月9日(木)、今年も上田市人権啓発推進委員会ははじめ五関係団体が主催して開催されました。

始めに、参会者全員でハンドインハンド(手に手をとって)歌を歌い、和やかな雰囲気が集いが始まりました。

NPO法人「遊び塾」の代表から、不登校の子どもたちやいじめ被害者などに寄り添って支援していることやこれからも傷ついている子どもたちの味方となって行動していく決意が語られました。



人権啓発担当者研修会

参加してよかった 素直に人と接して温かい地域にしたい

11月1日(土)、上野が丘公民館で、「あなたの思いに気づき、わたしのものに」をテーマに、市内社会教育関係団体の人権担当者等を対象に開催されました。参加者165名全員で人権啓発DVD「ほんとの空」を見た後、6つの分散会で話し合いをしました。

《参加者の声》DVD:「さまざまな人権問題が盛り込まれており、考えさせられた」

分散会:「さまざまな年代や地域、職種の方と意見交換ができ良かった」「コミュニケーション、言葉の大切さが改めて分かった」など、「人権」から普段の生活を振り返る良い機会になりました。



人権週間 街頭啓発

人権について考え行動しよう

第66回全国人権週間(12月4日~10日)の初日12月4日に、人権擁護委員や人権啓発に関わる団体、また、今回はサッカークラブチーム「アルティスタ東御」のメンバーと共に、上田駅やスーパーで「みんなで築こう人権の世紀」と記したLEDライトやチラシなどを配布して街頭啓発を行いました。

人権週間に限らず、私たち一人ひとりが、家族、友人、職場などで相手の立場になって考えたり、思いやる気持ちを育み、人権が尊重される社会を実現しましょう。



人権作品審査

人として大切なこと

本年度も人権に関わるポスター・作文・詩・標語を募集してきました。697点に及ぶ作品が、多くの児童・生徒、一般市民の方から寄せられました。ご協力ありがとうございました。どの作品からも、共に認め合い支え合うことの大切さを訴えようとする気持ちが伝わってきます。

二回の審査を経て、応募作品の中より最優秀・優秀作品が決まりました。選出された作品は一人ひとりの人権が尊重される社会の実現を目指し、今後の人権啓発活動で活用させていただきます。



うえだ人権フェスティバル

「笑い上手は 生き方上手」

～すわこ八福神さんの講演から～

「いのち・愛・そして絆」をテーマに2月21日(土)・22日(日)に人権フェスティバルが開催されました。

人権に関する資料の展示や最優秀人権作品の表彰式と人権講演会が行われました。

講演会では、諏訪市出身のアマチュア落語家 すわこ八福神さんが「男の気持ち・女の気持ち」と題して、人権・介護問題・諸外国から見た日本の現状などを取り入れた創作落語を話され、会場は笑い拍手で時間が経つのを忘れるほどでした。

「笑いは体に良い」と言われるように、来場されたみなさんは笑顔で会場をあとにしました。

なお、会場ではどん汁・お茶のおもてなし、福祉施設の手作りクッキーやパンなどの出店もあり大変盛況でした。



詩の部

あやまるのって

神科小学校 三年 穂島 彩乃

あやまるのってむずかしい

だって、いままでけんかしていた相手に

あやまるのってむずかしいから

あやまるのってむずかしい

だって、さっさとけんかして

あやまるのってむずかしい

だって、はみかしくなる

こわくなる

でも、やっつみださるこわくない

思ってたよりもっとこわい

だから、やさう

けんかをしたら 悪いと思つたら

できないことはない

だから、やってみる

詩の部 最優秀賞 受賞者

やさしいね

川辺小学校 一年 赤岡 来希

となりのせきの友だち

武石小学校 二年 下村 彩恵

あやまるのって

神科小学校 三年 穂島 彩乃

けんかをしたあの日

北小学校 四年 柳澤 楓

親友とけんかして…

神川小学校 五年 奥村 太一

大事な物ってなんだろう

菅平小学校 六年 新村 龍司

標語の部

あいさつすれば ともだち100人 できるかな

中塩田小学校 一年 岩崎 厚志

やすみじかん なかよしになれる チャンスだね

北小学校 二年 清水 空

だれ一人 かなしい人は いちやいけくない

西小学校 三年 津田竜之介

なやみ事話すと心がすっとする

塩川小学校 四年 遠藤 光

いわれてね うれしいことばは おすそわけ

神川小学校 五年 癸生川 優

いじめの火 一人の勇気が 消火器に

西小学校 六年 田村駿之介

しらんぷり? あの子の涙 こぼれてる

丸子中学校 一年 今泉 慎巨

差別ゼロ まずは自分の 意識から

塩田中学校 二年 宮越 翔吾

「一人じゃない」 相手を想い 声かけよう

第六中学校 三年 小林彩季帆

摘みとろう 世界に広がる 差別の芽

シナノケンシ株式会社 金井 恵

作文の部

山ざきぶく太郎さんの

お話を聞いて

城下小学校 三年 柳澤 泰良

ぼくは、山ざきぶく太郎さんのお話を聞いて、「一番心に残った言葉は、『手足があつたら、山ざきぶく太郎。』」

と言つていたので、山ざきぶく太郎さんのお話を聞いて、山ざきぶく太郎さん

は、かいてんや、大かいてんをかいてんや、

は、かいてんや、大かいてんをかいてんや、

「おんご。かいてんご。」

と言つてくれました。ぼくも、山ざきぶく太郎さんのお話を聞いて、



しなつがいの者の人たちでも、できないことはなにかりではないといふことが山ざきぶく太郎さんのお話でも分りました。そして、山ざきぶく太郎さんのお話を聞いて、山ざきぶく太郎さん

作文の部 最優秀賞 受賞者

みんなげんきなともだち

城下小学校 一年 太巻 美乃

おじいさんおばあさんの

中塩田小学校 二年 村上 結真

山ざきぶく太郎さんの

お話を聞いて

お母さんは やさしい

丸子中央小学校 四年 小松 世理

だれもが安心してくらせる日本に

北小学校 五年 田中 結

「友達」といつありがたさ

東小学校 六年 小坂 彩夢

人権月間で得たもの

依田窪南中学校 一年 林 萌々夏

みんな同じ「人間」だからこそ…

真田中学校 二年 一之瀬 奏

ありのままの私で生きる

第五中学校 三年 小野満綾子

広沢里枝子さんのお話を聞いて

丸子修学館高等学校 二年 小山みつほ

平成26年度

最優秀人権啓発作品

上田市人権啓発推進委員会では、上田市教育委員会とともに、毎年多くの方に人権尊重への理解を深めていただくために人権啓発作品（作文・詩・標語・ポスター）を募集しています。

今年度も小中学生をはじめたくさんの方に、ご応募をいただきました。その中から最優秀作品に選ばれた作品の一部をご紹介します。



うえだ人権フェスティバルで表彰式が行われました。(平成27年2月21日)

ポスターの部



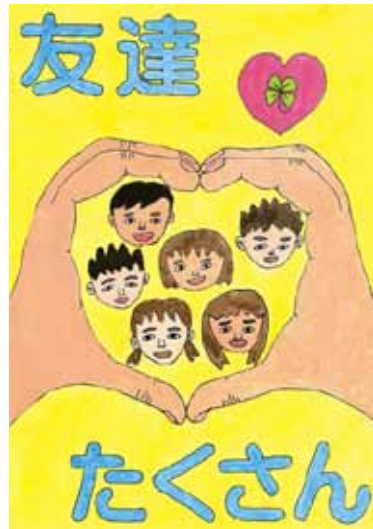
きょうりよくしよう
城下小学校 1年 武田 亜姫



いっしょにあそぼう
塩田西小学校 2年 竹内 奏樹



いっしょに ふこうよ
神科小学校 3年 飯嶋 美織



友達たくさん
武石小学校 4年 櫻井 沙恵



おたがいを みとめあおう
南小学校 5年 斉木 萌果



笑顔は幸せの証拠
本原小学校 6年 西岡 竜輝



見てもぬフリしてるでしょ?
塩田中学校 1年 田原 沙耶



見ているだけでは 変わらない
第三中学校 2年 山崎 真衣

上田市人権啓発推進委員会への
ご意見、入会申込み(年会費500円)は事務局まで。

《事務局》上田市教育委員会 生涯学習課
TEL.23-6370